

体温を守る休眠ニューロン

講師：高橋 徹 助教
筑波大学 医学医療系
国際統合睡眠医科学研究機構 IIS



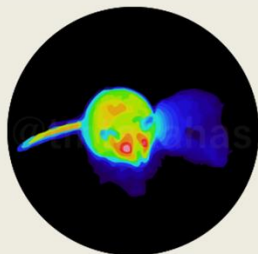
日時：2025年7月4日（金）17:00～

場所：名古屋市立大学桜山キャンパス
医学部研究棟11階 講義室B

※本セミナーはZOOM配信は行いません。会場までお越しください

私たち哺乳類は恒温性の動物です。どんなに暑くても寒くても、基本的に体温は37℃くらいに「高く」「一定に」保たれます。体温にはこの頑強性に加え柔軟性も備わり、たとえば睡眠-覚醒サイクルでは約1-2℃上下動します。こういった体温の調節は主に中枢神経系によって支配されており、その司令塔は視索前野POAだと古くから考えられています。

私は博士課程での研究において、マウスを冬眠に似た休眠状態に誘導できる神経細胞集団「Qニューロン」の同定に携わりました（Takahashi et al., Nature 2020）。QニューロンはPOAの最前方に位置し、人為的に興奮させると非常に強く長い低体温が誘導されます。直近では、Qニューロンは生理的な体温調節に関わっており、その存在意義は体温を「下げるため」ではなく実は「守るため」にあることが徐々にわかってきました。今回のセミナーでは、体温調節システムにおけるQニューロンの立ち位置・生理的機能・ユニーク性について最新の知見を交えながら、私なりの考えをお話したいと思います。



世話人：富永真琴（なごや先端研究開発センター 温度生物学研究室）

TEL: 052-853-8961, E-mail: tominaga@med.nagoya-cu.ac.jp

共催：名古屋市立大学神経科学卓越研究グループ